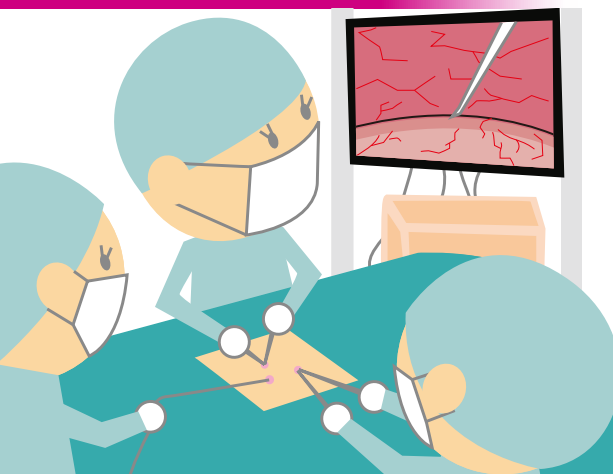


# リスクを減らす 肺がん手術と

## 胸腔鏡手術



肺がんは、日本のがんによる死亡原因の1位で、主な原因は喫煙とされています。がんは、進行すると隣接する臓器に転移するため、できるだけ早期に発見することが大切です。しかし、早期の肺がんは症状が出ないことがほとんどなので、日頃から定期検診や人間ドッグなどを受けておくことがおすすめです。

少し昔までの肺がん手術と言えば、傷は20～30cmで、あばら骨も切らなければできませんでした。最近では内視鏡を使う「胸腔鏡手術」が主流となり4cm程

度の傷で手術ができるようになりました。このため身体への負担が減り、高齢の方でも安全に肺がんの手術を受けることが可能となりました。

しかし、無事手術を終えたからといって安心できるとは限りません。通常は術後1週間で退院できますが、万が一、術後に肺炎を起こしてしまうと何ヵ月も入院が必要になる場合があります。ただでさえ手術で肺の一部を取ってしまったのに、残った肺に肺炎を起こすと大変苦しい思いをします。

傷が小さいので、身体への負担が少ない

## 口腔ケアの流れ

### 入院前

- レントゲン検査
- 治療計画
- むし歯や歯周病の治療
- 歯のクリーニング
- 口腔ケア指導

# 口腔ケア

## 口の中を綺麗にし、早期回復を目指す!

肺がん手術と口腔ケア。一見、何のつながりもないようですが、そこには密接な関係があります。そこで今回は、呼吸器外科で行う肺がん手術と併せて、口腔ケアを紹介します。

## なぜ口腔ケアが大切?

キレイな口腔で細菌をシャットアウト!



肺炎は細菌などの病原体が肺に入って起こる病気ですが、細菌の侵入経路の1つが口(口腔)です。口腔内にたくさん細菌が繁殖していれば、それだけ肺炎のリスクが高くなるというわけです。手術では人工呼吸が必要となり口から気管にチューブを入れますが、その際に口腔の細菌がチューブとともに気管に入ったり、術後は普段よりもむせやすい状態なので口腔の細菌を吸い込んだりすることが肺炎の原因になります。

つまり、術前後で口腔ケアを行うことで口の中の細菌の数を減らし、肺炎を防ぐことができるのです。特に、むし歯や歯周病の人は細菌の数が多いので、口腔ケアが大切です。

## —— 患者の皆様へ ——

病気の早期発見のためには、日頃から“かかりつけ医”による定期検診を受けることが大切です。同じように“かかりつけ歯科医”を受診し、定期的な口腔のチェックと歯科治療も受けておきましょう。そして定期的な検査で自分の身体の状態を把握し、元気な身体を維持しましょう。



■説明は  
徳島大学病院  
呼吸器外科

滝沢 宏光 (たきざわ ひろみつ) 副科長  
口腔管理センター

山村 佳子 (やまむら よしこ) 特任助教

■問い合わせ

Tel. 088-633-7743(呼吸器外科外来)

Tel. 088-633-7369(口腔管理センター)

### 手術前

- 専門的口腔ケア

### 手術後～退院前

- 専門的口腔ケア
- 退院後のセルフケア方法や注意点の指導

### 退院後

- 毎日のセルフケア
- かかりつけ医での定期的な受診